

審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者
I 審議事項					
1. 規則関係					
提案1	「特任連携会員の推薦様式について」の一部を改正すること	科学者委員会委員長	B(5-6)	特任連携会員の推薦様式について、一部項目を修正する必要があるため。	三成副会長
2. 委員会関係					
提案2	(機能別委員会) 科学者委員会 (1)運営要綱の一部改正(小分科会の設置1件)	科学者委員会委員長	B(7-8)	小分科会の設置に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。	三成副会長
提案3	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)委員会及び分科会委員の決定(【委員会及び分科会】新規3件、追加6件【小委員会】新規3件)	(1)電気・電子工学委員会委員長 (2)各部部長	B(9-14)	小委員会の設置等に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分野別委員会における委員等を決定する必要があるため。	会長 各部部長
提案4	(課題別委員会) 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会 (1)委員会委員の決定(追加1件)	(1)会長	B(15)	人口縮小社会における問題解決のための検討委員会における委員を決定する必要があるため。	渡辺副会長
提案5	(課題別委員会) 認知障害に関する包括的検討委員会 (1)委員会委員の決定(新規1件)	(1)会長	B(17-18)	認知障害に関する包括的検討委員会における委員を決定する必要があるため。	石川第二部長
提案6	国際委員会 I S C 等分科会の地方開催について	国際委員会委員長	B(19)	所要経費節約のために分科会の地方開催を行うため。	武内副会長
3. 国際関係					
提案7	平成30年度代表派遣について、実施計画の変更をすること	会長	B(21)	平成30年度代表派遣について、実施計画の変更を決定する必要があるため。	武内副会長
提案8	第18回アジア学術会議へ外国人を招聘すること	国際委員会委員長	B(23)	第18回アジア学術会議年次会合に外国アカデミー関係者を招聘することとしたため。 ・用務期間：12月5日(水)～12月7日(金) ・招聘場所：東京(日本) ※国際委員会9月11日承認、同アジア学術会議等分科会8月24日承認	武内副会長

4. 地方学術会議関係

提案9	平成30年度地方学術会議実施計画を決定すること	会長	B(25)	平成30年度地方学術会議実施計画を決定する必要があるため。	—
提案10	「地方学術会議 in 京都」の開催について	会長	B(27-28)	主催：日本学術会議 日時：平成30年12月22日（土） 13：00～19：00 場所：京都府立京都学・歴彩館、京都府立大学等	—

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成30年度第4四半期】

提案11	公開シンポジウム 「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」	社会学委員会委員長	B(33-34) ※全体概要 B(29-31)	主催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会 日時：平成31年1月14日（月・祝） 14:00～17:40 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—
提案12	公開シンポジウム 「人文社会科学系学協会・男女共同参画の実態と課題」（仮）	第一部部長	B(35-36)	主催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS） 日時：平成31年2月9日（土） 13:00～17:00 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—
提案13	公開シンポジウム 「わが国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考」（仮）」	健康・生活科学委員会委員長	B(37-39)	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会 日時：平成30年1月12日（土） 13:00～18:00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—
提案14	公開シンポジウム 「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」	物理学委員会委員長、化学委員会委員長	B(41-43)	主催：日本学術会議物理学委員会・化学委員会合同国際周期表年記念事業検討分科会、化学委員会 IUPAC 分科会 日時：平成31年2月23日（土） 10:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※第三部承認	—

6. その他のシンポジウム等

提案15	公開シンポジウム 「医療界における男女共同参画の推進と課題—医学部入試問題を含めて（仮題）」	科学者委員会委員長	B(45-47)	主催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会 日時：平成30年10月26日（金） 13:00～17:30 場所：日本学術会議講堂 ※科学者委員会承認 第二部承認	—
提案16	公開シンポジウム 「国際社会科学評議会（ISSC）会長アルベルト・マルティネッリ教授特別講演（仮題）」	政治学委員会委員長	B(49)	主催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会 日時：平成30年9月25日（火） 10：00～11：30 場所：早稲田大学政治経済学術院3号館4階404室 ※第一部承認	—

提案17	公開シンポジウム 「フューチャー・デザイン - 持続可能な未来に向けて」	経済学委員会委員長	B(51-52)	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター 日時：平成30年11月7日（水） 13：00～17：00 場所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホール ※第一部承認	—
提案18	公開シンポジウム 「サイエンスアゴラ内セッション『〈考える力〉とは何か？—思考の教育における哲学系諸学の役割』」	哲学委員会委員長	B(53-54)	主催：日本学術会議哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会、サイエンスアゴラ（科学技術振興機構） 日時：平成30年11月10日（土） 13：00～16：00 場所：テレコムセンタービル8階会議室B ※第一部承認	—
提案19	公開シンポジウム 「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2018」	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	B(55-56)	主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会 日時：平成30年12月21日（金） 13：00～17：00 場所：日本学術会議講堂 ※第二部承認	—
提案20	公開シンポジウム 「科学データの保存・利用態勢の強化と国際展開」	情報学委員会委員長	B(57-58)	主催：日本学術会議情報学委員会国際サイエンスデータ分科会 日時：平成30年11月19日（月） 10：30～16：00 場所：日本学術会議大会議室（2階） ※第三部承認	—
提案21	日本学術会議中部地区会議主催学術講演会 『地域をフィールドとした研究の可能性』	科学者委員会委員長	B(59-60)	主催：中部地区会議, 三重大学 日時：平成30年11月16日（金） 13：00～16：00 場所：三重大学 総合研究棟II 1階メディアホール（三重県津市）	—

7. 後援

提案22	国際会議の後援をすること	会長	B(61)	以下の国際会議について、講演の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたため。 ①科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第15回年次総会 主催：特定非営利活動法人STSフォーラム 期間：平成30年10月7日～9日（3日間） 場所：京都府京都市（国立京都国際会館） 参加予定国数：80か国・地域 申請者：特定非営利活動法人STSフォーラム理事長 尾身幸次 ※国際委員会9月11日承認、同国際会議主催等検討分科会8月31日承認	会長
------	--------------	----	-------	--	----

提案23	国内会議の後援をすること	会長	一	以下の会議について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①<u>第16回メンタルケア学術学会学術大会</u> 主催：メンタルケア学術学会 期間：平成30年10月13日(土) 場所：新宿NSビル 3F 3-G会議室 申請者：メンタルケア学術学会理事長 別府 武彦 ※第一部承認 ②<u>第13回医療の質・安全学会学術集会</u> 主催：一般社団法人医療の質・安全学会 期間：平成30年11月24日(土)～25日(日) 場所：名古屋国際会議場 参加予定者数：約3,000名 申請者：第13回医療の質・安全学会学術集会大会長 長尾能雅 ※第二部承認 ③<u>シンポジウム「持続可能な社会を目指して生物科学は何ができるのか」</u> 主催：生物科学学会連合 期間：平成30年10月1日(月) 場所：東京大学本郷キャンパス 理学部2号館講堂 参加予定者数：約70名 申請者：生物科学学会連合代表 中野 明彦 ※第二部承認	会長
------	--------------	----	---	--	----

Ⅱ その他

件名		資料
1.	今後の総会及び幹事会開催予定 次回幹事会は10月3日(水)16時30分開催	参考1
2.	第177回総会(10/3～5)の日程案について	参考2
3.	高木学校からの要望書及び原子力市民委員会からの質問状に対する回答について	参考3
4.	西日本豪雨災害の緊急報告会の開催及び台風21号、北海道胆振東部地震の対応について	参考4
5.	日本学術会議幹事会声明について	机上配布

○特任連携会員の推薦様式について（平成24年1月27日日本学術会議第144回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後		改 正 前	
(略) 様式 1 (略) (表3) 選考要件についての説明 ※国際会議への代表派遣の場合、表3は記入不要		(略) 様式 1 (略) (表3) 選考要件についての説明 ※国際会議への代表派遣の場合、表3は記入不要	
氏名	理由説明 <u>※特任連携会員を推薦するにあたり、</u> <u>下記の点を明確にして、理由を説明してください。</u> <u>①当該特任連携会員なしでは十分な審議が困難である理由</u> <u>②会員、連携会員の中に、同等の専門家がないことについて</u> <u>③候補者の任期</u> <u>④現時点での当該委員会・分科会における特任連携会員の数（比率）</u> <u>⑤（国際の場合）国際関係団体との関係</u>	氏名	理由説明 <u>※連携会員（特任連携会員を除く。以下同じ）等の状況、候補者の任期、委員会、分科会等の構成、部の特任連携会員数、国際関係団体との関係など</u>
注1) 添付資料として、①日本学術会議特任連携会員候補者推薦書（様式2）、②委員会、分科会等の委員名簿（様式3）を添付する（国際会議への代表派遣の場合は不要）。 注2) <u>特任連携会員の総数は一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用することとされていることを考慮した上で、理由説明を記載する。</u>		注) 添付資料として、①日本学術会議特任連携会員候補者推薦書（様式2）、②委員会、分科会等の委員名簿（様式3）を添付する（国際会議への代表派遣の場合は不要）。	

附則（平成３０年９月１２日日本学術会議第２６９回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

○科学者委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第 2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。				第 2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。			
分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考	分 科 会	調査審議事項	構 成	備 考
男女共同参画分科会	(略)	(略)	(略)	男女共同参画分科会	(略)	(略)	(略)
アンケート検討小分科会	1. 全国の大学・研究機関・学協会等に対する男女共同参画・ダイバーシティ推進・若手支援・学協会連携等に関するアンケートの実施と分析 2. 男女共同参画・ダイバーシティ推進・若手支援等の課題に関する研究者向けアンケート調査の実施と分析 3. アンケート調査結果のまとめと公表に係る審議に関すること	15 名以内の会員又は連携会員	設置期間：平成 30 年 9 月 12 日～平成 32 年 9 月 30 日	(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)				
(略)				(略)			

附則（平成 30 年 9 月 12 日日本学術会議第 269 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

科学者委員会男女共同参画分科会小分科会の設置について

分科会等名： アンケート検討小分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	科学者委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	本小分科会の設置目的は以下の4点である。 ①23期に男女共同参画分科会で発出した提言の課題の一つに全国アンケートの実施があり、それを実現することを目指す。 ②今期に男女共同参画分科会がすべての部にそろい、協力してアンケートを実施できる体制が整ったため、本格的なアンケートを実施することを目指す。 ③学協会連携分科会でもアンケートを実施予定であるが、同分科会と男女共同参画分科会で協力してアンケートを実施する必要がある。 ④今回実施予定のアンケートは、今後数年置きに実施する予定の第1回アンケートとなるため、独立した実施・検討委員会が必要である。
4	審議事項	1. 全国の大学・研究機関・学協会等に対する男女共同参画・ダイバーシティ推進・若手支援・学協会連携等に関するアンケートの実施と分析 2. 男女共同参画・ダイバーシティ推進・若手支援等の課題に関する研究者向けアンケート調査の実施と分析 3. アンケート調査結果のまとめと公表に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年9月12日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	電気電子工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	電気電子工学委員会通信・電子システム分科会	(略)	(略)	(略)		電気電子工学委員会通信・電子システム分科会	(略)	(略)	(略)
	電気電子工学委員会通信・電子システム分科会ICT分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会	1. 産業界からみたICT研究開発の役割と課題 2. 価値創造に資するICTの学術的方向性に係る審議に関すること	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者	平成30年9月12日～平成32年9月30日		(新規設置)			
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

この決定は、決定の日から施行する。

電気電子工学委員会通信・電子システム分科会小委員会の設置について

分科会等名：ＩＣＴ分野の魅力・興味基軸の分析と創造小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	電気電子工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員若しくは連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	通信・電子システム分科会は、ＩＣＴ領域が基盤技術と共にその活用分野の広がりを見せており、その将来像構築、さらなる活性化施策、それに合わせた人材育成方法について多面的に検討を深めることを目的に活動を行っている。本小委員会はＩＣＴが社会・産業・事業構造に大きな変化を与えつつある中で、ＩＣＴの新たな学術的方向性を明らかにすることを目的とするものである。具体的には、産業界が求めるＩＣＴのあり方を把握した上で、ＩＣＴ領域の新たな研究開発のあり方を明らかにする。あわせて、デザイン思考やサービス学などの関連領域の状況を踏まえ、価値創造に資するＩＣＴ研究の将来像構築を行う。
4	審議事項	1. 産業界からみたＩＣＴ研究開発の役割と課題 2. 価値創造に資するＩＣＴの学術的方向性に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年9月12日～平成32年9月30日
6	備考	※24期にて初設置

【委員会及び分科会】

○委員の決定（新規3件）

（基礎医学委員会 I C L A S 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
伊佐 正	京都大学大学院医学研究科神経生物学分野教授	第二部会員
亀田 達也	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
入来 篤史	国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター象徴概念発達研究チームチームリーダー	連携会員
續 輝久	福岡歯科大学先端科学研究センター客員教授	連携会員
渡辺 守	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科消化器病態学分野／消化器内科教授	連携会員

（臨床医学委員会循環器・内分泌・代謝分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
磯部 光章	榊原記念病院院長	第二部会員
永井 良三	自治医科大学学長	第二部会員
稲垣 暢也	京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学教授	連携会員
柏原 直樹	川崎医科大学腎臓・高血圧内科学主任教授、川崎医科大学副学長	連携会員
門脇 孝	東京大学大学院医学系研究科糖尿病・生活習慣病予防講座特任教授、帝京大学医学部附属溝口病院病態栄養学講座常勤客員教授	連携会員
木原 康樹	広島大学副学長（研究倫理担当）、広島大学大学院医歯薬保健学研究科循環器内科学教授	連携会員
児玉 浩子	帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科教授・学科長	連携会員
小室 一成	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授	連携会員

清野 進	神戸大学大学院医学研究科特命教授	連携会員
田中 敏博	東京医科歯科大学疾患バイオリソースセンター教授	連携会員
肥塚 直美	東京女子医科大学理事	連携会員
安田 聡	国立研究開発法人国立循環器病研究センター副院長	連携会員

(第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大西 公平	慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート特任教授	第三部会員
川村 光	大阪大学理学研究科教授	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授	第三部会員
田辺 新一	早稲田大学創造理工学部建築学科教授	第三部会員
茶谷 直人	大阪大学大学院工学研究科教授，大阪大学環境安全研究管理センター長・教授	第三部会員
菱田 公一	慶應義塾大学理工学部教授	第三部会員
山口 周	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員
吉村 忍	東京大学副学長・大学院工学系研究科教授	第三部会員
米田 雅子	慶應義塾大学先端研究センター特任教授	第三部会員 第三部幹事
安達 淳	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長・特任教授	連携会員
小藺 英雄	早稲田大学理工学術院教授	連携会員
小松 利光	九州大学名誉教授	連携会員
柴田 直	応用物理学会 J J A P / A P E X 専任編集長	連携会員
花木 啓祐	東洋大学情報連携学部教授	連携会員

○委員の追加（追加 6 件）

（健康・生活科学委員会・歯学委員会合同脱タバコ社会の実現分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
山下 喜久	九州大学大学院歯学研究院教授	連携会員

（薬学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
太田 茂	和歌山県立医科大学薬学部開設準備室	連携会員
菅野 純	独立行政法人労働者健康安全機構日本バイオアッセイ研究センター所長	連携会員
嶋田 一夫	東京大学大学院薬学系研究科教授	連携会員
寺崎 哲也	東北大学大学院薬学研究科教授	連携会員
土井 健史	大阪大学大学院薬学研究科教授	連携会員
安原 真人	帝京大学薬学部特任教授、東京医科歯科大学名誉教授	連携会員

（環境学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大政 謙次	東京大学名誉教授	連携会員
横張 真	東京大学大学院工学系研究科教授	連携会員

（環境学委員会都市と自然と環境分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
中村 桂子	東京医科歯科大学大学院国際保健医療事業開発学分野教授	連携会員

（総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
松尾 亜紀子	慶應義塾大学理工学部教授	連携会員

（第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小松 浩子	慶應義塾大学看護医療学部教授、大学院健康マネジメント研究科教授	第二部会員

【小委員会】

○委員の決定（新規３件）

（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会生物科学分野教育用語検討小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
中野 明彦	国立研究開発法人理化学研究所光量子工学研究センター副センター長	連携会員

（総合工学委員会 I C O 分科会光科学技術調査企画小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
馬場 俊彦	横浜国立大学工学研究院教授	連携会員

（総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会フロンティア人工物企画小委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
伊藤 恵理	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所・電子航法研究所主幹研究員	連携会員
鈴木 真二	東京大学工学系研究科教授	連携会員
中谷 和弘	東京大学大学院法学政治学研究科教授	連携会員
宮崎 恵子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所・海上技術安全研究所副系長	連携会員
大和 裕幸	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所理事長	連携会員

【課題別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）

（人口縮小社会における問題解決のための検討委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
経塚 淳子	東北大学生命科学研究科教授	第二部会員	第二部

【課題別委員会】

提案 5

○委員の決定（新規 1 件）

（認知障害に関する包括的検討委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考	推 薦
井伊 雅子	一橋大学国際・公共政策大学院教授	第一部会員	副会長
佐藤 岩夫	東京大学社会科学研究所教授・所長	第一部会員 第一部部長	第一部
石川 冬木	京都大学大学院生命科学研究科教授	第二部会員 第二部部長	副会長
平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター所長	第二部会員 第二部副部長	副会長
武田 洋幸	東京大学大学院理学系研究科長・教授	第二部会員 第二部幹事	副会長
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科長・教授	第二部会員 第二部幹事	副会長
伊佐 正	京都大学大学院医学研究科神経生物学分野教授	第二部会員	副会長
磯部 光章	榊原記念病院院長	第二部会員	副会長
遠藤 玉夫	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所所長代理	第二部会員	副会長
小川 宣子	中部大学応用生物学部教授	第二部会員	副会長
小松 浩子	慶應義塾大学看護医療学部教授、 大学院健康マネジメント研究科教授	第二部会員	副会長
寶金 清博	北海道大学病院長	第二部会員	副会長
山脇 成人	広島大学大学院医歯薬保健学研究科特任教授	第二部会員	副会長
萩田 紀博	株式会社国際電気通信基礎技術研究所（ATR）・知能ロボティクス研究所長	第三部会員	第三部

白澤 政和	桜美林大学大学院老年学研究科・教授	連携会員	第一部
土井 美和子	国立研究開発法人情報通信研究機構・ 監事、奈良先端科学技術大学院大学・理事	連携会員	第三部

国際委員会 I S C 等分科会の地方開催について

1. 会議名 国際委員会 I S C 等分科会（第 24 期・第 5 回）
2. 出席者（予定）

武内 和彦	委 員 長	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学特任教授
西條 辰義	幹 事	高知工科大学経済・マネジメント学群教授、総合地球環境学研究所特任教授
齋藤 安彦		日本大学総合科学研究所教授
巽 和行		名古屋大学名誉教授、名古屋大学物質科学国際研究センター特任教授
3. 日時 平成 3 0 年 9 月 2 6 日（水）8 : 0 0 ~ 9 : 0 0
4. 場所 福岡国際会議場（福岡県福岡市博多区石城町 2-1）
5. 提案理由 出席予定の委員 4 名のうち 3 名が福岡で開催される WSSF2018（第 4 回世界社会科学フォーラム）に出席予定であり、東京で開催した場合よりも所要経費が少額となるため。

（参考）

●日本学術会議分野別委員会および分科会等について（平成 20 年 10 月 23 日第 82 回幹事会決定）（抄）

IV 会議の開催について

⑪ 委員会等の開催地は、原則として東京 23 区内です。ただし、旅費の支給が不要の場合は、地方（東京 23 区外）での開催が可能です。また、旅費の支給が必要な場合でも、講演会、シンポジウム等の同時開催や地方開催の方が所要経費が少額の場合等は、幹事会の承認を得られれば開催できます。

平成 3 0 年度代表派遣実施計画の変更について

以下のとおり、平成 30 年度代表派遣実施計画の変更を行う。

	会議名称	派遣期間 (会期分)	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	内 容
1	2018 海洋研究科学委員会 (SCOR)総会	9 月 4 日 ～ 9 月 7 日	プリマス (英国)	山形 俊男 連携会員 国立研究開発法人海洋研究開発機構 アプリケーションラボ特任上席研究員	派遣の取止め ※自身の都合により
2	アジア科学アカデミー・科学協会 連合総会及び理事会	10 月 29 日 ～ 10 月 31 日	バンコク (タイ)	澁澤 栄 第二部会員 東京農工大学大学院農学研究院教授	開催日程変更(変更前: 10/26-10/28)により、吉野 連携会員に代わり派遣

第18回アジア学術会議招へい者

提案 8

○外国人招へい者

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Dr. Leena Srivastava FE Advisory Committee Co-chair (インド)	基調講演者として参加するため
				日本		
2	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Prof. Dr. Quazi Abdul Fattah President, Bangladesh Academy of Sciences (バングラデシュ)	アジア学術会議会長として総会 及び理事会に参加するため
				日本		
3	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Prof. Dr. Mesbahuddin Ahmed Secretary, Bangladesh Academy of Sciences (バングラデシュ)	アジア学術会議会長補佐として 総会及び理事会に参加するため
				日本		
4	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Prof. Dr Thet Lwin Vice-President, Myanmar Academy of Arts and Science (ミャンマー)	第19回アジア学術会議ホスト予 定機関副会長として総会及び理 事会に参加するため
				日本		
5	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Prof. Dr THAUNG HTIKE Pro-Rector, University of Yangon (ミャンマー)	第19回アジア学術会議ホスト予 定機関副会長補佐として総会及 び理事会に参加するため
				日本		
6	第18回アジア学術会議	12月5日 ～ 12月7日	3 日	東京	Prof. Om Romny Director General, Institute of Technology of Cambodia (カンボジア)	SCAジョイント・プロジェクト・ワー クショップ講演者として参加する ため
				日本		

平成30年度 地方学術会議 実施計画（案）

	開催日	開催場所	概 要
1	平成 30 年 12 月 22 日(土) 13:00～19:00	京都市 (京都府立京都学・ 歴彩館、京都府立 大学稲盛記念会館 など)	・ 対象 一般の方、研究者、産業界の方、学部生や大学院生 ・ 内容 「伝統文化・芸術と科学・学術の出会い」をテーマに、対談、講演、分科会、産学良縁創出企画(仮称)を開催 [企画：近畿地区会議]
2	平成 31 年 2 月 16 日(土) (予定)	札幌市 (市内のホテルで開催予定)	・ 内容等検討中 [企画：北海道地区会議]

地方学術会議 in 京都の開催について

- 1 主 催 日本学術会議
- 2 共催 (予定) 京都大学, 京都産業大学, 京都府立大学
- 3 後援 (予定) 京都府, 京都市, 大学コンソーシアム京都, 公益財団法人 日本学術協力財団
- 4 日 時 平成30年12月22日 (土) 13:00 ~ 19:00
- 5 会 場 第一部 京都府立京都学・歴彩館
第二部 京都府立大学稲盛記念会館
第三部 京都府立大学学生食堂 Deli Cafe たまご
- 6 対 象 一般の方, 研究者 (若手研究者を含む), 産業界の方, 学部生や大学院生
- 7 概 要
(テーマ)
伝統文化・芸術と科学・学術の出会い

(開催趣旨)

世界の多様化, 複雑化の中で, 今, 学術分野においても大きな変化がうまれようとしています。近代社会を形作ってきた西洋近代思想のゆらぎの一方で, 「過去のもの」とされてきたさまざまな文化の「新しさ」が改めて見出され, 伝統的知恵と科学・学術との融合・統合が, あちこちで生じつつあります。

伝統的文化・芸術という点で, 京都が日本を代表する場所であることは明らかです。ここには現代の新しい動きとともに, 西欧思想とは異なる古くて新しい文化もまた今なお息づいています。

「地方学術会議 in 京都」の第一部のシンポジウムでは, こうした伝統文化・芸術と現代の科学・学術の出会いをめぐって報告と討論を進めようと思います。たとえば京都の代表的伝統芸術である生け花です。生け花と西洋のフラワーアレンジメントとの大きな違いは, 後者が花を左右対称に生ける傾向が強いのに比べて, 前者は少ない材料で, 左右非対称 (アンバランス) に生ける点にあるともいわれています。非対称性が, 生け花の中にぽっかりと空いた空間を作り出し, 花や植物の美しさをひきたたせるのです。このような「見えない存在の可視化」は, 京都の伝統的寺院の石庭のデザインにも見て取ることができます。

第二部では, 伝統産業に加えて, 京都や先端産業などの複数テーマを設けた分科会方式を取ります。複雑な現代の諸問題に対して日本の伝統文化や芸術はどのような貢献ができるのか。過度に細分化された現代の科学・学術を, 伝統文化・芸術の視座を踏まえて融合させることは可能なのか。AI や IoT の時代, 科学技術と人間性を調和させることは本当にできるのか。参加者の活発な討論の中で明らかにしていきたいと思います。

さらに第三部では, 参加者間のさまざまな交流を創出する場を設けます。

(プログラム)

第一部

主催者挨拶

山極 壽一（日本学術会議会長・京都大学総長）

実行委員長挨拶

山田 啓二（前京都府知事・京都産業大学学長補佐・法学部教授）

対談「伝統芸術と科学(仮称)」

山極 壽一（日本学術会議会長・京都大学総長）

土佐 尚子（京都大学総合生存学館特定教授）

単独講演「アジア化する世界(仮称)」

中津 良平（京都大学大学院横断教育プログラム推進センター デザイン学リーディング大学院特命教授）

対談「いけばな～日本の知恵の世界発信～(仮称)」

池坊 専好（華道家元池坊 次期家元）

渡辺 美代子（日本学術会議副会長・科学技術振興機構副理事）

第二部

分科会1. 京都市民にとっての科学・学術(仮称)

コーディネーター: 坂東 昌子（NPO 法人あいんしゅたいん理事長）

分科会2. 伝統産業・文化と科学・学術 (仮称)

コーディネーター: 佐藤 洋一郎（京都府立大学京都和食文化研究センター特任教授）

分科会3. 先端産業と科学・学術 (仮称)

コーディネーター: 西本 清一（公益財団法人京都高度技術研究所理事長・地方独立行政法人京都市産業技術研究所理事長）

分科会4. 若手研究者にとっての学術会議(仮称)

コーディネーター: 新福 洋子（京都大学大学院医学研究科准教授）

第三部

産学良縁創出企画(仮称) 100人の事前申込制

進行: 宮野 公樹（京都大学学際融合教育研究推進センター准教授）

以上

5. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【平成30年度第4四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として 年間10回程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【平成30年度第4四半期】 全0件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
	提案なし					

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- (1) 各年度32回まで、及び 四半期ごとにおおむね8回
 (ともに土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む)

○今回提案【平成30年度第4四半期】 全4件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所
1	提案1 1 [p. 33-34]	公開シンポジウム「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」	平成31年 1月14日 (月・祝)	日本学術会議 講堂
2	提案1 2 [p. 35-36]	公開シンポジウム「人文社会科学系学協会・男女共同参画の実態と課題」(仮)	平成31年 2月9日 (土)	日本学術会議 講堂
3	提案1 3 [p. 37-39]	公開シンポジウム「わが国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考(仮)」	平成31年 1月12日 (土)	日本学術会議 講堂
4	提案1 4 [p. 41-43]	公開シンポジウム「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」	平成31年 2月23日 (土)	日本学術会議 講堂

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（平日 1 件/土日 4 件） 全 5 件 残り：5 件
（内訳）※現在の 5 件につき、すべて経費及び人的負担要

		第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
学術フォーラム	(土日)	－	2	2	0
	(平日)	1	－	－	0
合計		1	2	2	0

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等（学術フォーラム含む）全 19 件 残り：13 件
（内訳）

	関連部等	第 1 四半期 (4 月～6 月)	第 2 四半期 (7 月～9 月)	第 3 四半期 (10 月～12 月)	第 4 四半期 (1 月～3 月)
シンポジウム	第一部	1	2	1	2
	第二部	－	－	2	1
	第三部	－	1	2	1
	若手アカデミー	－	1	1	－
	課題別	－	－	－	－
学術フォーラム（土日）		－	2	2	0
合計		1	6	8	4

■承認済み案件一覧

1. 学術フォーラム

	テーマ	開催日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	「ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来」	平成 30 年 6 月 14 日 (木)	日本学術会議講堂	要	要
2	「エネルギー科学技術教育の現状と課題」	平成 30 年 9 月 8 日 (土)	日本学術会議講堂	要	要
3	「軍事的安全保障研究をめぐる現状と課題—日本学術会議アンケート調査結果をふまえて—」	平成 30 年 9 月 22 日 (土)	日本学術会議講堂	要	要
4	「乳幼児の多様性に迫る：発達保育実践政策学の発展」（仮題）	平成 30 年 11 月 18 日 (日)	日本学術会議講堂	要	要
5	「経営学領域における研究業績の評価と若手研究者の育成」	平成 30 年 12 月 9 日 (日)	日本学術会議講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

	テーマ	開催日時	主催委員会等	
1	「移民と人間の安全保障をジェンダー視点で考える」	平成 30 年 6 月 9 日 (土)	社会学委員会ジェンダー研究 分科会	第一部
2	「国際光デー記念シンポジウム」	平成 30 年 7 月 7 日 (土)	総合工学委員会 ICO 分科会	第三部
3	「〈所有権〉を問い直す：歴史・比較・理論（仮題）」	平成 30 年 7 月 21 日 (土)	法学委員会	第一部
4	「若手アカデミーが考えるシチズンサイエンスに基づいた学術横断的社会連携」	平成 30 年 7 月 28 日 (土)	若手アカデミーイノベーションに向けた社会連携分科会	若手アカデミー
5	「いま高校歴史教育を考える（仮題）」	平成 30 年 8 月 4 日 (土)	史学委員会中高大歴史教育に関する分科会	第一部
6	「脳科学と人工知能（AI）：その期待と課題」	平成 30 年 10 月 13 日 (土)	臨床医学委員会脳とこころ分科会、基礎医学委員会神経科学分科会 心理学・教育委員会脳と意識分科会 総合工学・機械工学委員会計算科学シミュレーションと工学設計分科会	第二部
7	「博士キャリアの可能性—企業が博士に求めること—」	平成 30 年 10 月 27 日 (土)	若手アカデミー若手による学術の未来検討分科会、イノベーションに向けた社会連携分科会	若手アカデミー
8	「2050 年の水産資源を日本の食卓から考える」	平成 30 年 11 月 10 日 (土)	食料科学委員会水産学分科会	第二部
9	「科学技術の進展と人間のアイデンティティ—哲学・倫理・思想・宗教教育の役割—」（仮題）	平成 30 年 11 月 23 日 (金・祝)	哲学委員会	第一部
10	「新しい国際単位系（SI）重さ、電気、温度、そして時間の計測と私たちの暮らし」	平成 30 年 12 月 2 日 (日)	物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会、化学委員会 IUPAC 分科会	第三部
11	「科学的知見の創出に資する可視化：日本発の可視化研究ブレイクスルーに向けて」	平成 30 年 12 月 15 日 (土)	総合工学委員会 科学的知見の創出に資する可視化分科会	第三部

公開シンポジウム

「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催：日本社会福祉系学会連合
3. 後 援：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人医療社会福祉協会（いずれも依頼予定）
4. 日 時：平成 31 年 1 月 14 日（月・祝）14：00～17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：日本学術会議社会福祉学分科会は、提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について－社会福祉学の視点から－」を表出した（8 月 22 日第 268 回幹事会で審議、現段階では表出予定）。本提言は、社会的つながりが弱い人を①家族・職場・地域における人間関係が希薄になっているため、②家族の成員間の関係性があっても家族の外部に対しては閉鎖的なため、自ら欲しても社会的な相互承認の場を十分に持てない人と定義した。こうした社会的つながりが弱い人は、近年増加しているが、その背景には、家族、職場、地域の変容があり、単にライフスタイルの結果ではなく、社会問題としてとらえる必要がある。実際に今年、イギリスは孤独担当相を設置して政府としての支援政策の検討を開始した。日本でも無縁死、ひきこもりなどの形で表面化しつつあるこの問題に対し、政府、自治体、社会福祉関係団体が一体となって支援策を検討しなければならない時期にきていると言えよう。本シンポジウムでは、提言内容の紹介、イギリスの対策の現状を確認した上で、政府関係者およびこの問題に取り組んでいる団体関係者をシンポジストとして迎え、国民及び関係者に対してこの問題の重要性を喚起し、日本における社会的つながりが弱い人への支援のあり方について検討したい。
8. 次 第：
 - 14：00 開会のあいさつ 白澤政和（日本学術会議連携会員、桜美林大学大学院老年学研究科教授、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長）
 - 14：10 日本学術会議提言「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について－社会福祉学の視点から－」の説明

岩崎 晋也（日本学術会議第一部会員、法政大学現代福祉学部教授）

14：30 講演「イギリスにおける孤独問題と社会的支援」

ジャネット・ウォーカー（リンカーン大学保健・社会福祉学部副学部長、
国際ソーシャルワーク学校連盟イギリス代表
理事）

15：30－15：40 （ 休憩 ）

15：40 シンポジウム「社会的つながりが弱い人への支援のあり方について」

（司会）原田 正樹（日本学術会議連携会員、日本福祉大学社会福祉学部教授）

（コメンテーター）岩崎 晋也（日本学術会議第一部会員、法政大学現代福祉学
部教授）

（シンポジスト）高木美智代（厚生労働副大臣）（依頼中）

勝部麗子（社会福祉法人豊中市社会福祉協議会福祉推進室長）

奥田知志（NPO法人抱樸理事長）

17：30 閉会のあいさつ 木原活信（同志社大学社会学部教授、日本社会福祉系学会
連合会長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「人文社会科学系学協会・男女共同参画の実態と課題」（仮）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）

2. 共 催：

3. 日 時：平成31年2月9日（土）13：00～17：00

4. 場 所：日本学術会議 講堂

5. 分科会等の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

第一部総合ジェンダー分科会の企画・支援により発足した人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会との年次シンポジウムである。2回目となる今回は、平成30年6月からGEAHSSが実施した「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」についての報告、それ以外のGEAHSSの1年間の活動報告、それらを踏まえてのさらなる課題の抽出が主な内容となる。調査はGEAHSS加盟学会（30年7月末段階で54学会）のみならず、様々な人文社会科学系学協会に広く呼びかけており、前例のないものである。まとまったデータが得られれば、自然科学系の男女共同参画学協会連絡会の調査データとの比較も可能になり、効果的な政策提言に結びつけることができる。

7. 次 第：

13：00 開会挨拶：井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）

13：10 趣旨説明：永瀬伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授教授）

司 会：巽 孝之（日本学術会議第一部会員、慶應義塾大学文学部教授）

13：30 報告1

上田貴子（日本学術会議連会会員、早稲田大学政治経済学術院教授）

仲 真紀子（日本学術会議連会会員、立命館大学総合心理学部教）

「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」報告（予定）

14：00 報告2

井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学文学部教授）

GEAHSS 活動報告

14：30 講演

高橋裕子（日本学術会議連携会員、津田塾大学学長）（予定）

学会の課題、GEAHSS への期待

（休憩）

15：30 発表 加盟学会の取り組み—Good Practice—

モデレータ 小方直幸（東京大学大学院教育学研究科教授） （予定）

16：15 総合討論

モデレータ 藤原聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会研究科教授） （予定）

17：00 閉会挨拶：青野篤子（福山大学人間文化学部教授）

9. 関係部の承認の有無： 第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「わが国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考
(仮題)」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会
2. 共 催：日本スポーツ体育健康科学学術連合、(一社) 日本体育学会
3. 後 援：日本スポーツ体育健康科学学術連合加盟団体、全国体育系大学学長・学部長会、文部科学省、スポーツ庁、文化庁、独立行政法人スポーツ振興センター、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー、朝日新聞社、毎日新聞社、(以上、交渉予定)
4. 日 時：平成 30 年 1 月 12 日 (土) 13:00~18:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、わが国の昨今のスポーツの状況に鑑み、スポーツと文化のアイデンティティを再考することを目的に、二部構成で行う。

第一部では、スポーツと博物館とのつながりを取り上げる。スポーツ基本法において、スポーツは世界共通の人類の文化であり、人々の権利であることを謳っている。国民一人一人がスポーツのもたらす多様な価値を享受するためには、様々な方法や活動によってスポーツにアクセスする契機をつくり、次世代に向け喚起することが欠かせない。過去のスポーツ関係者たちが残した資料(以下、スポーツ文化財)は、体育やスポーツの歴史的・文化的背景を提供し、体育・スポーツのあり方やそれらが営まれる社会の未来に対する指針を示唆する研究資料でもある。しかしながら、博物館資料を十分に活用した国内での研究や教育は発展途上にある。

現在、国内には 230 を超えるスポーツ関連博物館があるとされている(スポーツ史学会による調査)が、学芸員および司書を配置する総合的な機関は、秩父宮記念スポーツ博物館のみである。しかし、同博物館は、旧国立競技場の解体に伴い、現在は休館を余儀なくされている。同博物館の近い将来のあり方について、早急に国民的議論がなされることが望まれる。そこで、本シンポジウムでは、スポーツ文化財を所蔵する博物館と体育・スポーツ科学研究・教育のつながりがもたらすスポーツ文化の未来、体育

やスポーツが営まれる私たちの社会の未来について考えてみたい。

第二部では、体育・スポーツをめぐる危機と闇に対峙する。近年(イマ)のわが国(ココ)のスポーツ界では、常軌を逸した不正行為(パワハラ、セクハラ、猥褻・強姦、暴力、窃盗、薬物等々)が繰り返され、病めるスポーツの姿が露呈している。社会問題化したスポーツ関係者たちの一連の誤りは、現代日本のスポーツが内包する諸特質と諸制度に起因する文化的未成熟性によるものと推察される。

今やスポーツにおける競争は、最先端の科学的知見を応用した「合理性」の追求が勝敗を決する時代に入っている。他方、わが国のスポーツ現実の日常には、未だに時代錯誤も甚だしい「非合理」な伝統的風土が蔓延っている。こうしたコントラストこそが文化のゆがみを象徴しているといえよう。

そこで本シンポジウムでは、「中立性」を旨とする学術の立場から、スポーツの闇に視点を定めることでイマ・ココのスポーツ文化を批判的に捉え直し、リスクを最小限に抑え、チャンスを最大限に引き出すコレカラのスポーツのあり方を検討する。併せて、体育・スポーツに関わる学術研究のこれまでを内省し、スポーツの真の発展を導きうる学術団体と研究者の今後の方向性についても議論を深める。

8. 次 第 (予定) :

13:00～ 開会挨拶 田原 淳子 (日本学術会議連携会員、国土舘大学体育学部教授)

深代 千之 (東京大学教授)

13:05～13:15 全体趣旨、スケジュール説明 清水 紀宏 (筑波大学教授)

13:15～ 第一部 博物館とのつながりがもたらすスポーツ文化の未来

13:15～13:45 キーノートレクチャー「スポーツ文化と博物館資料」

寒川 恒夫 (日本学術会議連携会員、静岡産業大学)

13:45～15:15 シンポジウム

■スポーツ博物館の現場から

井上洋一 (東京国立科学博物館) (交渉中)

「博物館が広げる研究の世界—国内外の博物館の現状から」

■博物館学の観点から

栗原 祐司 (京都国立博物館)

「博物館学からみたスポーツ文化財の可能性」

■博物館の教育的利用の観点から

下湯 直樹 (日本オリンピック委員会)

「オリンピック教育におけるミュージアムの利活用」

－IOC “The Olympic Museum”の試みと日本オリンピック・ミュージアムの可能性
コーディネーター：來田享子（日本学術会議連携会員、中京大学スポーツ科学部教授）

15:15～15:30 休 憩

15:30～17:30 第二部 体育・スポーツの危機と闇に対峙する：Sport In Japan

■哲学的考察

坂本 拓弥（筑波大学） 交渉中

■歴史学的考察

鈴木 明哲（東京学芸大学） 交渉中

■社会学的考察

高峰 修（明治大学教授） 交渉中

コーディネーター：菊 幸一（筑波大学教授）

17:30～ 閉会挨拶 阿江 通良（日本体育大学教授）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

提案 14

公開シンポジウム「周期表が拓く科学と技術 国際周期表年を迎えて」 の開催について

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会・化学委員会合同 国際周期表年記念
事業検討分科会 日本学術会議化学委員会 IUPAC 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本化学会、国立研究
開発法人理化学研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 31 年 2 月 23 日（土）10：00～17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂 会議室 1 室使用
6. 分科会等の開催：あり

7. 開催趣旨： 国際周期表年が 2019 年に決定されたことを記念して、周期表発見の歴史、科学教育、元素発見に対する日本の科学的貢献、元素名決定の経緯、元素の利用がもたらす科学技術の発展を幅広く俯瞰する。

8. 次 第：

- 10：00 挨拶 「国際周期表年を迎えて」
酒井 健（日本学術会議連携会員、九州大学大学院理学研究院化学
部門教授）
- 10：20 挨拶 「日本化学会と周期表」
川合 眞紀（日本学術会議連携会員、日本化学会会長、自然科学研
究機構分子科学研究所・所長）
- 10：30 挨拶
川村 光（日本学術会議第三部会員、日本物理学会会長、大阪大学
大学院理学研究科教授）
- 10：40 挨拶
松本 紘（理化学研究所・理事長）

- 10 : 50 「『一家に一枚周期表』に込めた思い」(仮題)
玉尾 皓平(公益財団法人豊田理化学研究所・所長、理化学研究所栄誉
研究員)
- 11 : 20 「革新的材料の開発と元素選択」
細野 秀雄(東京工業大学・フロンティア材料研究所教授)
- 11 : 50—13 : 30 (休憩／分科会開催)
- 13 : 30 「多様な金属元素を用いて機能化した多孔性材料」
北川 進(日本学術会議連携会員、京都大学高等研究院特別教授)
- 14 : 00 「さまざまな周期表」(仮題)
前野 悦輝(京都大学大学院理学研究科教授)
- 14 : 30 「ありふれた元素からなる機能性物質」
所 裕子(日本学術会議連携会員、筑波大学大学院数理物質科学研究
科教授)
- 15 : 00—15 : 30 (休憩)
- 15 : 30 「第 1 1 3 番新元素「ニホニウム」の発見」
森田 浩介(九州大学大学院理学研究院物理部門教授、理化学研究所
仁科加速器科学研究センター超重元素研究開発部部長)
- 16 : 00 「IUPAC での新元素とその化学記号の決定に関わって」
巽 和行(日本学術会議連携会員、名古屋大学特任教授)
- 16 : 30 総合討論
(司会) 櫻井 博儀(日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教
授、国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器科学研究セ
ンター副センター長)
(コメンテーターは講演者とする)

17：15 閉会挨拶 「周期表にみるヒトの探究心」

野尻 美保子（日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム

「医療界における男女共同参画の推進と課題ー医学部入試問題を含めて（仮題）」の開催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会

2. 共 催：日本医学会連合

3. 後 援：無

4. 日 時：平成 30 年 10 月 26 日（金）13：00～17：30

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会等の開催：有

7. 開催趣旨：

東京医科大学入試における女子受験生の一律減点（20 点）が発覚し、目下、文科省による全国調査が進められている。女性医師比率の低さや医学系入試における女子合格率の低さについてはかねてより指摘されており、その背景に女性医師の離職や休職の多さへの懸念があることも示唆されている。医療現場での過重労働は問題視され続けており、労働環境の改善が進まなかったことが入試における女性差別を招いたとの指摘もある。本シンポジウムは、このような問題に関して、現時点での論点を整理し、今後の取り組みの課題を展望するものである。

8. 次 第：

13:00～17:00

総合司会 熊谷日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授）

13:00～13:05 開会挨拶

平井みどり（日本学術会議第二部副部長・第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティー分科会）

13:05～13:15 挨拶

日本医学会連合 岸 玲子（日本医学会連合副会長、北海道大学）

13:15～13:30 趣旨説明ー日本学術会議幹事会声明を中心に

三成美保（日本学術会議副会長、第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系））

13:30～14:05 I 基調講演

「女性医師問題の原点は日本の医療提供体制の特殊性にある」

桃井眞理子（日本学術会議連携会員、社会福祉法人桐生療育双葉会両毛整股療護園・自治医科大学名誉教授）

14:05～15:25 II 医療界における男女共同参画推進に向けた課題（各 20 分）

報告 1 医学部入試における女性差別の排除

種部恭子（日本女性医療者連合・女性クリニック We 富山院長）

報告 2 臨床の立場から

小西郁夫（京都医療センター院長・日本医学会連合理事）

報告 3 医療経済学の立場から

（調整中）

報告 4 医療と社会（ハラスメント風土）

渡辺美代子（日本学術会議副会長、第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副
理事）

15:25～15:35 休憩

15:35～16:25 III 今後の課題—コメントと討論（各 10 分）

コメント 1 理系男女共同参画の取り組みから

野尻美保子（日本学術会議第三部会員・大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研
究機構・素粒子原子核研究所教授）

コメント 2 若手医師から

坂元晴香（内科医・東京大学大学院医学研究科国際保健政策学教室助教）

コメント 3 文系からの問題提起

（調整中）

コメント 4 臨床の立場から

（調整中）

コメント 5 医療経済学の立場から

（調整中）

16:25～17:25 討論

司会

三成美保（日本学術会議副会長、第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活
環境科学系））

名越澄子（日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内
科教授）

パネリスト

桃井眞理子（日本学術会議連携会員、社会福祉法人桐生療育双葉会両毛整股療護園・自
治医科大学名誉教授）

種部恭子（日本女性医療者連合・女性クリニック We 富山院長）

小西郁夫（京都医療センター院長・日本医学会連合理事）

（報告 3 報告者・調整中）

渡辺美代子（日本学術会議副会長、第三部会員、国立研究開発法人科学技術振興機構副
理事）

17:25～17:30 閉会挨拶

伊藤公雄（日本学術会議第一部会員・京都産業大学現現代社会学部客員教授）

9. 関係部の承認の有無：

科学者委員会 承認
第二部 承認

(下線の講演者等は、主催分科会等委員)

公開シンポジウム「国際社会科学評議会（ISSC）会長アルベルト・マルティネッリ教授
特別講演」の開催について（仮題）

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会比較政治分科会
2. 共 催：早稲田大学 EU 研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成30年9月25日（火）10：00～11：30
5. 場 所：早稲田大学政治経済学術院 3号館4階404室
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：国際社会科学評議会（ISSC）会長でミラノ大学名誉教授のアルベルト・マルティネッリ博士をお招きし、EUの改革可能性について、イギリスの離脱や各国ポピュリスト政党の動向を視野に、実現可能な提案も含めてお話いただく。
8. 次第：

司会 眞柄 秀子（日本学術会議第一部会員・早稲田大学政治経済学術院教授）

10：00 挨拶
小川 有美（日本学術会議連携会員・立教大学法学部教授）

10：05 歓迎のことば
福田耕司（早稲田大学 EU 研究所長・早稲田大学政治経済学術院教授）

10：10 アルベルト・マルティネッリ教授報告
“Main challenges to European integration and key reform proposals, in the light of Brexit and rising national-populist parties”（ヨーロッパ統合の課題と主要な改革の提案—Brexit と各国ポピュリスト政党台頭の視点から）

11：25 閉会のことば
新川 敏光（日本学術会議連携会員・法政大学法学部教授）
9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者等は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「フューチャー・デザイン - 持続可能な未来に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

2. 共 催：検討中

3. 後 援：吹田市（依頼中）

4. 日 時：平成30年11月7日（水）13：00～17：00

5. 場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館 阪急電鉄・三和銀行ホール

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：気候変動や資源エネルギー問題、政府債務問題など、持続可能性に関わる諸課題はまさに世代を超えた問題である。一方で、人の近視性や将来に対する楽観性、あるいはマーケットなどの社会システムの下では、世代を超えた問題に対処することが困難である。このような世代間にまたがる将来の課題に対処し、持続可能な自然と社会を将来世代に引き継いでいくためのさまざまな「社会の仕組み」をデザインする新たな試みが「フューチャー・デザイン」である。

学術会議の機関紙“学術の動向”の6月号でフューチャー・デザイン特集が組まれ、その中でも詳述されているように、既に様々な専門分野の研究者や、市民、自治体・政府の政策担当者など実務家も関わりながら、フューチャー・デザイン研究や政策応用などの実践が進んでいる。日本学術会議においても、経済学・環境学合同委員会の下に2017年よりフューチャー・デザイン分科会が発足し、新たな学術領域としての検討が始まったところである。2018年6月に工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター（本企画の主催者の一つ）においてフューチャー・デザイン部門が設置され、多様なステークホルダーとの共創によるフューチャー・デザイン教育研究が積極的に進められている。

本シンポジウムでは、フューチャー・デザインに関わる最新の研究成果や政

策応用の実践などについて報告を行うとともに、一般市民、産業界、自治体や政府などの公的機関の関係者とともに、今後のフューチャー・デザインに関わる学術の方向性や展開について考える機会とする。

8. 次 第 *発表順および講演題目については仮

13:00 開会挨拶：小林 傳司（日本学術会議第一部会員、大阪大学理事（依頼予定））

13:10 講演①『未来社会デザインと工学部の役割』
田中 敏宏（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科長）

13:50 講演②『フューチャー・デザイン』
西條 辰義（日本学術会議第一部会員、総合地球環境学研究所特任教授・高知工科大学 フューチャー・デザイン研究所長）

14:30 講演③『フューチャー・デザインの政策応用と今後の展望』
小林 慶一郎（慶応大学経済学部教授）

休憩（10分）

15:20 講演④『フューチャー・デザインの社会実装と地域実践』
原 圭史郎（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センターフューチャー・デザイン部門長・准教授）

16:00 講演⑤『フューチャー・デザインとリスクコミュニケーション』
倉敷 哲生（大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻）

16:40 閉会挨拶 大阪大学工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「サイエンスアゴラ内セッション『〈考える力〉とは何か？—思考の教育における哲学系諸学の役割』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第一部哲学委員会哲学・倫理・宗教教育分科会

2. 日 時：平成30年11月10日（土）13：00～16：00

3. 場 所：テレコムセンタービル 8階 会議室B

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

現在の教育改革の方向性として、PISAのキー・コンピテンシー教育、大学入試改革、「考え、議論する道德」の教科化、新科目「公共」の導入、シチズンシップ教育などに見られるように、「考える力」を育てることがすべての学校教育の課題となっている。とりわけAIの発展によって、人間にしかできない創造的な思考が求められているという。しかしその「考える力」とはそもそもどのような力のことか、求められる「考える力」の内実とは何だろうか。「考える力」すなわち思考力は、哲学分野の伝統的な課題であるだけでなく、心理学、認知科学、人工知能研究など複数の科学分野に横断的に関係し、なにより教育における最重要テーマである。「考える力」とは何かを、改めて定義から問い直し、その教育の可能性と現代社会における意義、さらに教育評価の問題について議論する。

6. 次 第：

13：00 開会挨拶・趣旨説明：森田 美芽（日本学術会議連携会員、大阪キリスト教短期大学特任教授）

13：10 哲学分野の大学教育参照基準の説明：藤原 聖子（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）

司 会：河野哲也（日本学術会議連携会員、立教大学文学部教授）

13：25 提題1

楠見 孝（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授）
「心理学から見た“考える力”とその教育（仮）」

13：50 提題2

松原 仁（公立はこだて未来大学複雑系知能学科教授）
「人工知能時代における“考える力”（仮）」

14 : 15 提題 3

山内 清郎（立命館大学文学部准教授）

「哲学から見た“考える力”とその教育（仮）」

（休憩）

14 : 50 指定討論者による質疑

一ノ瀬 正樹（日本学術会議連携会員、武蔵野大学グローバル学部教授）

中村 征樹（日本学術会議連携会員、大阪大学全学教育推進機構准教授）

15 : 15 会場との質疑応答

15 : 50 まとめと閉会挨拶

7. 関係部の承認の有無： 第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2018」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク、福島大学、農研機構（全て予定）
3. 日 時：平成30年12月21日（金）：13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議 講堂
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災によって引き起こされた東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらした。この事故からすでに7年が経過したものの復興への道のりはまだ厳しいものがある。福島県産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主操業などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していないが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱いている。そこで本フォーラムでは、6年間の活動を振り返りながら、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関する課題を議論し、福島県農林水産業復興の加速に資することを目指す。
7. 次 第：
 - 13:00 開会の挨拶：
 - 澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）
 - 13:10 本フォーラム6年間の記録と課題：
 - 渡部 終五（日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部特任教授）
 - 中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
 - 13:50 環境放射能レベルと健康影響調査について：
 - 福島の放射能汚染の現状と課題
 - 塚田 祥文（福島大学教授、環境放射能研究所長）
 - 県民健康調査事業の現状と課題
 - 神谷 研二（福島県立医科大学教授、放射線医学県民健康センター長）

- 14:30 農業復興のとり組みについて：
農業復興を支える技術開発の現状と課題
梅村 恭子（日本学術会議連携会員、農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究
部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長）
檜葉町における農業復興の現状と課題
山内 健一（檜葉町役場産業振興課農業復興係長兼農政係）
- 15:00 水産業復興のとり組みとリスクコミュニケーションについて：
福島県における漁業復興の現状と課題
柳内 孝之（福島県漁業協同組合連合会理事）
水産物の安全に関する現状と課題
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）
- 15:40-16:10 休憩 および 関連研究成果の展示
- 16:10 総合討論
中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
塚田 祥文（福島大学教授、環境放射能研究所長）
神谷 研二（福島県立医科大学教授、放射線医学県民健康センター長）
梅村 恭子（日本学術会議連携会員、農業・食品産業技術総合研究機構畜産研
究部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長）
山内 健一（檜葉町役場産業振興課農業復興係長兼農政係長）
柳内 孝之（福島県漁業協同組合連合会理事）
- 16:50 閉会の挨拶：
眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「科学データの保存・利用態勢の強化と国際展開」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会国際サイエンスデータ分科会
2. 共 催：交渉中
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成30年11月19日（月）10：30～16：00
5. 場 所：日本学術会議大会議室（2階）
6. 分科会等の開催：なし

7. 開催趣旨：

現在、国際的にオープンサイエンスおよび研究データ共有の議論が急速に進展しつつあり、デジタル化による社会変革への模索とともに、科学研究の新たな価値や新しい情報共有体制を目指す動きが活発化している。日本学術会議が加盟する ISC^(*) は、2つの先駆的な学術データ事業である WDS と CODATA を推進しており、我が国はその事業運営へも顕著な関与・貢献をしている。一方、学術データのあり方については、各学術分野への貢献とともに、学術全体さらには社会との情報共有やデータ利活用基盤構築のような新しい研究コンセプトの議論が国際的に進展しており、ICSU・ISSC^(†) 統合と ISC 誕生に象徴されるような、多分野融合研究の推進に向けた大きな流れが作られつつあるといえるであろう。そこでこの研究集会では、WDS と CODATA における最近の国際動向を踏まえて、我が国のデータ関連活動の活性化と国際連携の強化に向けた議論を行い、今後の活動方針についてデータ関連コミュニティにおける共通認識の形成を目指す。

*：International Science Council（国際学術会議）。2007年以前は ICSU（国際科学会議）。

†：International Social Science Council（国際社会科学協議会）。

8. 次 第：

10：30 開催主旨説明

村山泰啓（日本学術会議連携会員、情報通信研究機構研究統括、
WDS 国際科学委員会 ex officio 委員）

- 10 : 40 オープンサイエンス時代の科学データ：国際学術政策的展望
林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所上席研究官）
- 11 : 10 World Data System の国際活動
Rorie Edmunds（WDS 国際プログラムオフィス、プログラムオフィサー）
- 11 : 40 CODATA の歩みと我が国の国際貢献
芦野俊宏（日本学術会議特任連携会員、東洋大学国際政治学部教授）
- 12 : 10－13 : 30 （ 休憩 ）
- 13 : 30 将来の研究データ基盤と学術研究への影響
村山泰啓（日本学術会議連携会員、情報通信研究機構研究統括）
- 14 : 00 将来の研究データ利活用と市民、社会との協働
近藤康久（総合地球環境学研究所准教授）
- 14 : 30 総合討論
（司会） 村山泰啓（日本学術会議連携会員、情報通信研究機構研究統括、WDS 国際科学委員会 ex officio 委員）
- （パネリスト）
渡邊堯（WDS 国際プログラムオフィス・シニアアドバイザー）
芦野俊宏（日本学術会議特任連携会員、東洋大学国際政治学部教授）
Rorie Edmunds（WDS 国際プログラムオフィス・プログラムオフィサー）
林和弘（文部科学省科学技術・学術政策研究所上席研究官）
近藤康久（総合地球環境学研究所准教授）
- 15 : 30 閉会
9. 関係部の承認の有無：第三部承認
（下線の登壇者は、主催分科会委員）

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会
『地域をフィールドとした研究の可能性』の開催について

1. 主 催 日本学術会議中部地区会議（共催：三重大学）
2. 日 時 平成30年11月16日（金） 13：00～16：00
3. 会 場 三重大学 総合研究棟 II 1階 メディアホール（三重県津市）

4. 開催趣旨

地方創生により、日本全体の活力をあげることが目標とし、三重大学では地域性を活かした研究を展開している。本学術講演会では、三重大学地域拠点サテライト構想の1つである伊賀サテライトから「国際忍者研究センター」、三重大学が地域防災力の向上に資することを目的として設立した「地域圏防災・減災研究センター」の研究を発表し、地域をフィールドとした研究とそれを通じた地域貢献について、三重大学の取り組みを紹介する。

5. 次 第

- (1) 13:00～13:15 開会挨拶
三重大学長 駒田 美弘
日本学術会議副会長 三成 美保
(奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系）)
- (2) 13:15～13:20 主催者挨拶
日本学術会議会員 中部地区会議代表幹事 戸田山 和久
(名古屋大学大学院情報学研究科教授)
- (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
中部地区科学者懇談会幹事 樹神 成（三重大学人文学部教授）
- (4) 13:30～15:50 学術講演会の演題及び演者（案）
講演会テーマ『 地域をフィールドとした研究の可能性 』
 - ・講演 I 「忍者研究への挑戦（仮）」
三重大学人文学部
教授 山田 雄司
 - ・講演 II 「南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえた震災復興計画の事前検討（仮）」
三重大学大学院工学研究科（兼）地域圏防災・減災研究センター
准教授 副センター長 浅野 聡

(5) 15:50 閉会挨拶

三重大学理事（研究・社会連携担当）・副学長 鶴岡 信治

(司会) 日本学術会議連携会員 中部地区会議運営協議会委員 村田 真理子
(三重大学大学院医学系研究科教授)

※下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員

国際会議の後援について（1 件）

（本件は 8 月 31 日開催の国際会議主催等検討分科会、9 月 11 日開催の国際委員会にて承認済。）

1. 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第 1 5 回年次総会

主催：特定非営利活動法人 S T S フォーラム

期間：平成 30 年 10 月 7 日（日）～9 日（火）（3 日間）

場所：国立京都国際会館（京都府京都市）

参加予定国数：80 か国・地域

参加予定者数：1, 400 人（国外：900 人、国内：500 人）

テーマ：「科学技術の光と影」